月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日に締切り，翌月に発行の「天文月報」に掲載いたします．ご投稿いただいた記事は，翌月初旬に一度校正をお願いいたします．
記事の投稿は，e-mailでtoukou@geppou.asj.or.jp宛にお送りください．折り返し，受領の連絡をいたします．

人事公募

核融合科学研究所　研究教育職員

1. 募集人員：
   （1）位相空間乱流ユニット助教　1名
   （2）プラズマ・複相間輸送ユニット助教　1名
2. （1）所属分野：詳細は「10. その他」記載のURLにおいて確認すること．
   （2）勤務地：岐阜県土岐市下石町322–6
3. 専門分野／4. 職務内容・担当科目：詳細は「10. その他」記載のURLにおいて確認すること．
5. （1）着任時期：詳細は「10. その他」記載のURLにおいて確認すること．
   （2）任期：任期無し
6. 応募資格：詳細は「10. その他」記載のURLにおいて確認すること．
7. 提出書類：詳細は「10. その他」記載のURLにおいて確認すること．
   （1）履歴書
   （2）これまでの研究内容
   （3）就任後の抱負
   （4）研究業績リスト
   （5）論文別刷
   （6）添付する論文の概要と本人の貢献を記載した文書
   （7）推薦書
8. 応募締切：2027年1月13日（水）17時
9. （1）提出先：詳細は「10. その他」記載のURLにおいて確認すること．
   （2）問合せ先：
   ●提出書類について
   核融合科学研究所管理部総務企画課人事係
   E-mail　nifs-jinji@nifs.ac.jp
   ●研究内容等について
   核融合科学研究所研究部長　坂本隆一
   E-mail　sakamoto@nifs.ac.jp
10. その他（待遇など）：
    その他詳細は以下を参照ください．
    https://www.nifs.ac.jp/about/recruit/

研究助成

山田科学振興財団
2027年度研究援助候補者の推薦

【援助の趣旨及び内容】

1. 本財団は自然科学の基礎的研究に対して，研究費の援助を致します．実用指向研究は援助の対象としません．申請に際しては，次記を考慮してください．
   1）萌芽的・独創的研究
   2）新規研究グループで実施される研究
   3）学際性，国際性の観点からみて優れた研究
   ※評価が定着して研究資金が得やすいものより，萌芽的で将来の発展が期待される基礎研究を重視します．
   ※多様な視点や発想を取り入れた研究活動を実践する創造力ある研究者を積極的に支援するため，本財団は，女性の活躍はもちろんのこと，一人一人の多様性を尊重します．
2. 援助額は1件当たり150〜300万円，援助規模は総額4,000万円，採択件数は18件程度を予定しています．また，女性研究者3名以上の採択を見込んでいます．
3. 援助金を給与にあてることはできません．特に財団が指定した場合を除き，申請者の給与以外の使途は自由です．
4. 援助金の使用期間は，採択日から翌年度の3月末日までとします．

【申請者資格・募集要項】

財団のHPを参照くださるようお願いいたします．
https://yamadazaidan.jp/requirements/grant-bosyu_kenkyu/gakkaikojinsuisen/

【日本天文学会での候補者審査・推薦】
　日本天文学会の推薦により本援助に応募することを希望される場合は，以下のようにお願いいたします．
・財団の申請者資格に加えて，申請者が応募時点で日本天文学会の会員であることが必要です．
・日本天文学会締切日：2027年2月5日（金）必着
・募集要項記載の「電子申請システム」経由でご応募のうえ，事務長〈jimucho@asj.or.jp〉宛にシステム提出完了の旨メールにて連絡願います．
メール連絡を受けてシステム情報確認のうえ日本天文学会事務より受領確認メールを返信いたします．
山田科学振興財団「電子申請システム」ページ ⇒
https://grant.yamadazaidan.jp/
※昨年より学会への応募方法を「電子申請システム」経由に切り換えておりますので，ご注意ください

【日本天文学会からの推薦件数】
　日本天文学会からの推薦枠は基本3件までとなっております．
　応募された研究計画は，日本天文学会にて審査を行い推薦枠に応じた件数（以内）を選考のうえ山田科学振興財団に推薦致します．
　なお，日本天文学会から推薦した候補者の中から，2024年度1名，2025年度1名，2026年度は2名が，本研究援助に採択されています．
実績紹介：https://yamadazaidan.jp/achievements/

共同研究

自然科学研究機構 Open Mix Lab（OML）公募研究プログラム

1. ウェブページアドレス
   https://www.nins.jp/collabo/oml.html
2. 応募期間
   2026年11月2日（月）10時～11月27日（金）17時まで
3. 募集内容

　OMLプロジェクトは，研究手法や研究装置・設備を新たな分野に適用したりすることで，従来の研究をさらに発展させることを目的としており，研究交流と組織間連携を通じて革新的な研究活動を促進することを期待しております．
　OMLプロジェクトは，活動の目的や進展に合わせた複数のタイプに分類され，今回は以下の5つについて公募を行います．

プロジェクトのタイプ
　①研究共創型
　②若手支援型
　③テーマ設定型
　④研究スタートアップ支援型
　⑤スマートクラウドラボ先導型
　⑥技術開発型

　研究期間や助成額，資格等の詳細は，ウェブページをご覧ください．

4. お問い合わせ先
   自然科学研究機構　研究協力課
   e-mail nins-jr @ nins.jp
   （@を半角に変えてください）．

研究会・集会案内

名古屋大学大学院理学研究科・名古屋市科学館・名古屋大学素粒子宇宙起源研究所共催 第23回坂田・早川記念レクチャー

「宇宙のはじまり　～唯物論から唯空論へ～」
浅井祥仁 氏（高エネルギー加速器研究機構　機構長）

令和8年12月20日（日）　開場13:00　開始13:30
　　終了予定16:00
FUJIなごや科学館（名古屋市科学館）　生命館地下2階サイエンスホール

■対象：高校生以上
■定員：200名（事前申し込み制，多数の場合は抽選）
■参加費：無料（ただし，科学館への入館には所定の観覧料が必要です）
■講演会ウェブページ：
　https://www.phys.nagoya-u.ac.jp/SakataHayakawa/

～集まれ，科学者を夢見る若者たち！～
　名古屋大学 大学院理学研究科理学専攻物理第二講座は，素粒子物理学と宇宙物理学の両分野における世界の研究の発展へ寄与するとともに，ノーベル賞受賞者をはじめ，多くの人材育成にかかわってきました．坂田・早川記念レクチャーは，坂田昌一・早川幸男両教授の業績をたたえ，21世紀を担う研究者の発掘および育成を目的として設けられました．
　第23回目となる今回は，素粒子物理学の分野にお

いて数々の成果を出された浅井祥仁氏をお招きします．

宇宙は「無」から始まった．どうして，何もないところから，こんな多くの物質とエネルギーに満ちあふれた宇宙ができたのか？　いかにして宇宙が生まれたのか？　エネルギーって保存しないの？　その理解を進めるきっかけとなったのが，2012年のヒッグス粒子の発見です．最先端の素粒子研究対象が，「粒子（物質）」から「真空」や「時空」に移っています．「無用の用」で，「真空」がこの宇宙を生んだ可能性が見え始めてきました．また「時空」（空間と時間をあわせたもの）も，ただの入れものではなくて，何か構造があり，量子コンピューターの作動原理である「量子もつれ」に関係があると思われています．最新の成果から今後の展開について考えます．

申込方法：講演会ウェブページの専用フォームからお申し込みください．
（申し込みで寄せられた個人情報は，本セミナーの運営に必要な範囲でのみ使用します）
申込締切：令和8年12月6日（日）
問い合わせ先：
内容についてのお問い合わせ
〒464–8602　名古屋市千種区不老町　名古屋大学大学院理学研究科N研
担当：堀井
E-mail: sakata-hayakawa2026@kmi.nagoya-u.ac.jp

申込方法，会場に関するお問い合わせ
FUJIなごや科学館　坂田・早川記念レクチャー担当
電話：052–201–4486（代）

注：高校などでまとまって参加希望される場合は，お問い合わせ下さい．

会務案内

会長候補者選挙結果

日本天文学会定款第19条および会長・副会長・理事・監事選考細則（以下，細則）に基づき行いました会長候補者の選挙について，結果を次のように報告します（細則第9条）．

推薦された候補者は田代信氏1名だったため，細則第6条により投票は行わず，田代信氏を会長候補者としました．

なお，この結果は，細則第9条に基づき理事会および代議員に報告いたしました．

（選挙管理委員会委員長　山崎了）

日本天文学会 2026 年秋季年会報告

2026年秋季年会は，9月8日（火）から10日（木）までの3日間，岡山理科大学岡山キャンパス（岡山市，ホスト：岡山理科大学）にて開催された．遠隔地から参加していただけるように，現地およびオンライン（ベストエフォート）のハイブリッド開催であった．講演は現地で行っていただくことを原則としたが，子育てや介護など特別の理由がある場合はオンライン講演も受け付けた．本年会よりウェブベースの大会プラットフォームを利用した予稿受付・参加登録等の方式が新しく採用された．年会参加者数は，会員960名，非会員75名の計1,035名（うち現地参加者は847名）であった．講演件数は，口頭講演（a）が511件，ポスター講演（b, c）が137件の計648件であった．天文教育フォーラム，特別セッション（天文学白書），および受賞記念講演（欧文研究報告論文賞）も開催された．なお，今回は記者会見を実施しなかった．開催地である岡山理科大学および参加者の皆様のご理解とご協力により，有効な年会とすることができた．参加者・関係者の皆様にこの場を借りてお礼申し上げたい．座長は次頁の方々に務めていただいた．会場・時間帯別にお名前を示し，感謝の意を表する（敬称略）．

	9月8日(火)		9月9日(水)		9月10日(木)	
	10:00–12:10	14:30–16:40	09:30–11:40	14:00–16:10	09:30–11:40	13:00–15:10
A	R. 銀河 **榎谷玲依** (国立天文台)	Q. 星間現象 **村瀬健** (岐阜大学)	Q. 星間現象 **佐野栄俊** (岐阜大学)	Q. 星間現象 **三石郁之** (名古屋大学)	Q. 星間現象 **成田拓仁** (理化学研究所)	Q. 星間現象 **酒見はる香** (山口大学)
B	Y. 教育・広報・他 **藤原英明** (東北大学)	Y. 教育・広報・他 **臼田-佐藤功美子** (国立天文台)	T. 銀河団 **福島光太郎** (東京理科大学)	T. 銀河団 **内田悠介** (宇宙航空研究開発機構)		
C	M. 太陽 **八田良樹** (名古屋大学)	M. 太陽 **成影典之** (国立天文台)	M. 太陽/N. 恒星・恒星進化 **堀田英之** (名古屋大学)	N. 恒星・恒星進化 **鈴木昭宏** (東京大学)	N. 恒星・恒星進化 **中道晶香** (京都産業大学)	N. 恒星・恒星進化 **中川亜紀治** (鹿児島大学)
D	V1. 観測機器 **前澤裕之** (大阪公立大学)	V1. 観測機器 **中島拓** (公立諏訪東京理科大学)	V1. 観測機器 **石井峻** (国立天文台)	S. 活動銀河核 **川室太希** (大阪大学)	S. 活動銀河核 **工藤祐己** (東京大学)	S. 活動銀河核 **三好真** (国立天文台)
E	V2. 観測機器 **松林和也** (東京大学)	V2. 観測機器 **宮川浩平** (宇宙航空研究開発機構)	V2. 観測機器 **小森健太郎** (国立天文台)	V2. 観測機器 **松浦周二** (関西学院大学)	V2. 観測機器 **津村耕司** (東北大学)	V2. 観測機器 **高橋葵** (宇宙航空研究開発機構)
F	U. 宇宙論 **白崎正人** (国立天文台)	U. 宇宙論 **新居舜** (第一工科大学)	V3. 観測機器 **松本浩典** (大阪大学)	V3. 観測機器 **上田周太朗** (金沢大学)	V3. 観測機器 **前田良知** (宇宙航空研究開発機構)	V3. 観測機器 **林多佳由** (京都大学)
G	P2. 原始惑星系円盤 **逢澤正嵩** (茨城大学)	P2. 原始惑星系円盤 **武藤恭之** (工学院大学)	P3. 惑星系 **鈴木大介** (大阪大学)	P3. 惑星系 **飯野孝浩** (山梨大学)		
H	P1. 星形成 **中村文隆** (国立天文台)	P1. 星形成 **山田麟** (国立天文台)	P1. 星形成 **元木業人** (山口大学)	P1. 星形成 **下西隆** (新潟大学)	P1. 星形成 **古家健次** (理化学研究所)	P1. 星形成 **野津翔太** (東京大学)
I	W. コンパクト天体 **袴田知宏** (宇宙航空研究開発機構)	W. コンパクト天体 **井上壮大** (東京大学)	W. コンパクト天体 **寺田幸功** (埼玉大学/宇宙航空研究開発機構)	W. コンパクト天体 **朝比奈雄太** (筑波大学)	W. コンパクト天体 **大城勇憲** (理化学研究所)	W. コンパクト天体 **木村和貴** (東北大学)
J	X. 銀河形成・進化 **但木謙一** (北海学園大学)	X. 銀河形成・進化 **泉拓磨** (国立天文台)	X. 銀河形成・進化 **森正夫** (筑波大学)	X. 銀河形成・進化 **井上昭雄** (早稲田大学)	X. 銀河形成・進化 **廿日出文洋** (国立天文台)	X. 銀河形成・進化 **梅畑豪紀** (名古屋大学)

〈特別セッション〉
「みんなで天文学の未来を語ろう!第5回」
世話人：天文学白書委員会第1期委員
赤堀卓也（国立天文台），岡本桜子（国立天文台），鴈野重之（九州産業大学），河原創（JAXA/宇宙科学研究所），高橋慶太郎（熊本大学・委員長），高橋亘（国立天文台），田中雅臣（東北大学），富田賢吾（東北大学），野田浩司（千葉大学），野田博文（東北大学），野津湧太（University of Colorado Boulder），平松正顕（国立天文台），米徳大輔（金沢大学）

秋季年会9月8日(火) 18:15–19:15に天文学白書に関する特別セッションがハイブリッド形式で開催されました．第5回目となる今回は，「文科省の「中の人」に聞いてみよう ― 研究費のリアルとその舞台裏」と題し，天文学の発展に欠かせない科学研究費助成事業（科研費）を取り上げ，文部科学省から2人の講演者を迎えて研究費政策の仕組みや現場のリアルな姿について語っていただきました．参加者の人数は現地会場・オンラインがそれぞれ約65名・約100名と，多くの方に参加していただきました．

本セッションではまず委員長の高橋慶太郎から天文学白書委員会の趣旨説明と進捗報告が行われました．この事業は日本天文学会員が波長横断・分野横断で天文学全体について楽しく語り合う場を作って天文学コミュニティを盛り上げていくこと，そしてコミュニティの夢を白書としてまとめることを主な目的としています（詳しくは天文月報2025年2月号の記事をご参照ください）．現在，全10章の構成のもと執筆者は71名（延べ123名）に達し，1〜2か月の遅れはあるものの2026年9月の初稿完成，2027年3月の原稿完成に向けて執筆が進められていることが報告されました．

最初の講演は本間ゆりか氏（文部科学省研究振興局学術研究推進課専門職）によるもので，文部科学省の職場環境やどのような人が働いているのかといった「中の人」の視点から，現場のリアルな実態や政策を支える舞台裏のインフォーマルな話題についてお話しいただきました．2つ目は大鷲正和氏（文部科学省研究振興局学術研究推進課企画室長）による講演で，日本の研究力の現状や科研費の果たす役割を踏まえつつ，昨今世間でも注目を集める「科研費倍増」への要望や概算要求の動向，今後の制度改革についてご自身の経歴を交えながら語っていただきました．会場からは盛んに質問が出て大いに盛り上がりました．

その後の質疑応答・議論では，講演者と参加者により科研費の配分や審査システムの仕組み，若手研究者支援のあり方，文科省における政策形成や業務の実情などについて活発に議論されました．研究費制度のリアルな舞台裏を理解するとともに，今後の天文学研究の発展に向けた有意義なセッションとなりました．

〈天文教育フォーラム〉

会期初日の9月8日17時から18時まで，日本天文教育普及研究会との共催にて天文教育フォーラムが開催された．今回は岡山理科大学（天文学会K会場）とオンラインとのハイリッド開催であり，現地とオンラインでそれぞれ約70名，約90名の方にご参加いただいた．

今回のフォーラムのテーマは，年会開催地である岡山にて1926年の倉敷天文台が設立されたことも鑑み，「公開天文台100周年：天文研究・教育における公開天文台のこれまでとこれから」と設定した．社会教育と普及に資する「公開天文台」は，公設・私設の枠を超えて全国的な広がりを見せ，研究や学校教育のための天文台とは違った側面で日本の天文学を支えてきた．日本独自の文化として定着した公開天文台の100周年という節目に際し，その発祥の地である岡山において，天文学の研究・学校教育において公開天文台が果たしてきた貢献を振り返りつつ，未来に向けた新たな協力関係の構築について，垣根を越えて議論を深めることを狙いとした．

今回はみさと天文台の米澤樹氏，教育委員から兵庫県立大学西はりま天文台の高橋隼氏，南阿蘇ルナ天文台の武藤祐子氏と，いずれも公開天文台の所属である面々を話題提供者としてお招きし，歴史的背景や現状などそれぞれの立場から公開天文台における研究教育現場の現状についてご紹介いただき，さらにパネルディスカッションの時間で会場からも質問を受けつつ活発に議論された．

委員長である大朝氏からの挨拶の後，まず米澤氏からは公開天文台の歴史や現状について，自身も調査に加わった各地域のおかれた状況も加えながらレビューを行った．300あまりある日本の公開天文台について，地域との関係，研究や教育と観光といった様々な側面を内包する公開天文台という独特の存在を事例とともに概観した．

高橋氏からは大学の天文台でもある西はりま天文台における研究と教育の実践について紹介があった．初代台長である黒田武彦氏の「教育・普及と研究は車の両輪」という言葉をどのように実践していったか，研究と教育のそれぞれの面から紹介があった．

武藤氏からは現在南阿蘇ルナ天文台が積極的に実践および研究をしている「天文台浴」についての事例紹介があった．IAUの取り組み，近年のwell-beingなどの社会的動向にひきつけ，天文学だけではない研究の場としての天文台の活用事例となっていた．

パネルディスカッションでは委員長である大朝氏も加わり，フォーラム申込時における事前アンケートの結果を共有したうえで，公開天文台を取り巻く課題と可能性について議論が行われた．地域連携の観点ではふるさと納税との関係，教育と研究の両輪の観点では市民参加型研究による公開天文台の活性化と参加自体を目的化するという課題のバランスが指摘された．最後に，公開天文台協会の会長である竹内幹蔵氏より挨拶を頂き閉会とした．

日本の特徴ともいえる公開天文台について，天文教育研究との接合を現場でどのように進めていくか，参加者に考えるきっかけとなれば幸いである．

〈欧文研究報告論文賞受賞記念講演〉

年会最終日の9月10日の15:30より，2025年度の欧文研究報告論文賞の受賞記念講演が行われた．講演者および講演タイトルは以下の通りである．

矢島義之氏「近傍銀河の低温分子ガストレーサー―^{12}CO(J=2–1)/^{12}CO(J=1–0）輝線強度比一定の仮定が及ぼす影響―」
岡部信広氏「HSC-XXL: Baryon budget of the 136 XXL groups and clusters」

講演会は庶務理事の進行のもと，会長の挨拶で開会した．矢島氏は野辺山45 m鏡を用いた観測による分子輝線強度比と星形成活動の関係に関する研究を，論文化の際の裏話も交えつつ講演した．岡部氏は銀河団

のバリオン量の高精度測定に向けて，様々な統計解析を駆使しつつ各種バイアスを丁寧に取り除いていったことを講演した．熱意のある講演の中で様々な苦労話も紹介して頂き，聴衆一同おおいに刺激を受けると同時に，親近感もわいたことだと思う．各講演に続く質疑応答も活発になされた．

〈保育室〉

岡山理科大学 C1号館8階の理大ホール 控室1・2にて，保育室を開設した．本年会では3家族4名が保育室を利用した．保育室の準備にあたり，岡山理科大学・国立天文台のスタッフの方々に様々なご協力をいただいたことを感謝する．

〈公開講演会〉

日本天文学会第77回公開講演会は，2026年9月6日（日）13:30から16:30まで，「天文王国おかやま」誘客促進協議会，岡山市教育委員会，倉敷市教育委員会，浅口市教育委員会，日本公開天文台協会の後援を得て，岡山理科大学理大ホールにおいて岡山理科大学共催で開催された．「天文王国おかやまの天文学」―プロとアマチュアが紡いできた日本の天文学―をテーマに，吉田道利氏（国立天文台副台長／教授）による「岡山が切り拓いた日本の天文学―岡山天体物理観測所の果たした功績―」，三島和久氏（ライフパーク倉敷科学センター学芸員）による「倉敷天文台創立100周年と本田實」，山内大介氏（岡山理科大学講師）による「岡山から月へ：月面で探る宇宙のはじまり」の3講演が行われた．建設後66年を迎えた188 cm反射望遠鏡の功績から，2026年11月に創立100周年を迎える倉敷天文台の歴史，そして未来の月面天文台プロジェクトまで，岡山をキーワードとする天文学の歩みと展望が分かりやすく解説された．中学生から一般まで約70名の参加者があり，各講演後には熱心な質疑が行われた．また「天文王国おかやま」誘客促進協議会の協力のもと，会場ロビーでは美星天文台やスペースガードセンター，京都大学せいめい望遠鏡など県内天文関連施設のポスター展示，写真撮影用パネルの設置，ノベルティ配布が行われ，来場者の目を楽しませた．司会は「天文王国おかやま」の法被を着用した本田充彦（岡山理科大学）が務めた．

（本田充彦）

〈懇親会〉

年会2日目の9月9日（水）19:00より，ANAクラウンプラザホテル岡山19階「宙」にて懇親会を開催した．岡山駅西口至近という利便性の高い会場もあり，学生96名を含む230名もの方々に参加していただいた．参加申込および受付には，前回に引き続きオンライン決済サービス「Peatix」を使用したことで，スムーズな事前決済と当日の受付運営を実現できた．なお，完全事前決済制としたため，当日に数名の方から参加希望の打診をいただいたものの，お断りせざるを得なかったことは心苦しく感じている．当日の事務負担軽減のための措置としてご了承いただきたい．懇親会は本田充彦・岡山理科大学開催地理事の進行により開会し，太田耕司・日本天文学会会長の挨拶および乾杯の音頭により宴が始まった．料理に関しては，若手や学生のために「質より量」を重視した発注としたが，そこはホテルクオリティであり，岡山産の食材を生かした上品なメニューがテーブルを飾った．また，今回の目玉として，学会会員である沖田博文氏（国立天文台）のご協力のもと，同氏のご夫人のご実家である倉敷の老舗「菊池酒造」の日本酒3種飲み比べイベントが開催された．この地酒コーナーは予想外の大盛況となり，多くの参加者が岡山の誇る銘酒の味を堪能した．夜景の広がる会場では，世代や分野，立場を超えた活発な交流と親睦の輪が広がり，非常に有意義なひとときとなった．最後は，次回開催地である埼玉大学の寺田幸功・次期開催地理事の挨拶をもって，21:00に締めとなった．参加していただいた皆様，素晴らしい会場とサービスを提供していただいたホテルスタッフの方々，そして多大なサポートをいただいた岡山コンベンション協会に深く感謝を申し上げる．

（本田充彦）

（年会実行委員長　和泉究）

欧文研究報告（PASJ）に関するお知らせ

（1）紙面デザインの変更

出版委託先のOxford University Press（OUP）による組版プロセスの迅速化および自動化の促進を目的として，第79巻（2027年）掲載論文より紙面デザインを変更いたします．

新しい紙面デザインでは，フォントの刷新や行間の調整により，全体の視認性と読みやすさを向上させています．また，著者・所属一覧やアブストラクトについてもフォントスタイルや文字サイズを見直し，より見やすいレイアウトとなります．

なお，新デザインに対応したクラスファイルは現在準備中です．当面の間は従来のクラスファイルをご使用くださいますようお願いいたします．

（2）論文執筆時のAI利用および開示方針の明文化

これまで投稿規定では，執筆時のAI利用に関して学術出版の規範を扱うCOPE (Committee on Publication Ethics）による方針を参照するのみでしたが，急速なAI利用の拡大に伴い，OUPでは新たにAI利用および開示方針を明文化しました．

今後，PASJでは同社による以下の規程に基づき運用いたします．

・著者資格：著者は人間のみ，AIツールを著者として記載することは不可（COPEガイダンス準拠）．
・著者の責任：論文の正確性，独創性，倫理的適合性，およびAI支援を受けた内容に著者は全責任を負う．
・利用の開示：コンテンツ生成やデータ処理等にAIを使用した場合は，明確な開示が必要（開示項目：ツール名，使用方法，原稿内のどの部分に利用したか）．
・開示不要な範囲：スペルや文法チェック，参考文献のフォーマット調整など，限定的な言語補助ツールとしての利用については開示不要．
・画像の制限：科学・臨床・記録用の画像（事実関係を示すもの）に対する生成AIの使用・加工は不可．

OUPによる方針の原文は下記サイトよりご確認ください．

https://www.asj.or.jp/jp/activities/pasj/

ご不明な点がありましたら編集部へお問い合わせください．

欧文研究報告編集委員会

編集委員会より

天文月報記事投稿用アップローダー

https://www.asj.or.jp/jp/activities/geppou/author_submission/

■ログイン

ユーザー名とパスワードが必要です．ホームページにある「お問い合わせフォーム」からお問い合わせください．

■アップロードの仕方

・アップロード画面で必要事項を埋めてください．するとアップロードに進むことができます．
・できる限りファイルは1つにまとめてください．
・ファイルが複数ある場合は「複数のファイルを投稿する」ボタンを押してください．押すたびに欄が増えます．
・1回あたり全部で最大50 Mbyteまで，個数は20個まで送信できます．それ以上の巨大なファイルのアップロードは推奨されませんが，やむをえない場合は分割してお送りください．

■注意

投稿者の個人の認証はcookieを利用しています．

したがってcookieを受け取らないブラウザでは使えません．またフォームのチェックや可変個数のアップロードボックスはjavascriptを利用していますのでjavascriptが使えなければこのアップローダーは使えません．その場合はtoukou@geppou.asj.or.jpまでメールでご投稿ください．

■連絡先

アップローダーに関するご質問はtoukou@geppou.asj.or.jpまでお願いします．

（天文月報編集長）

天文月報記事ご執筆用テンプレート

SKYLIGHT，EUREKA，天球儀などのご執筆にあたりましては，日本天文学会HP内「天文月報」のページにあります「投稿用テンプレート」をご活用ください．

https://www.asj.or.jp/jp/activities/geppou/author_template/

TeX・LaTeXで執筆される方はテンプレートをオンライン上またはダウンロードしてご利用ください．

MSWordで執筆される方はwordテンプレートをダウンロードしてご利用ください．

ご執筆の前に必ず「執筆マニュアル」をご一読ください．

https://www.asj.or.jp/jp/activities/geppou/author_manual/

texをご利用される場合は，あわせてreadmeもお読み下さい．

※ご利用にあたって不具合を発見された方は，お手数をおかけいたしますが，編集委員会までご連絡をお願い申し上げます．

訃　　報

会員の竹田洋一氏は2026年9月17日，72歳にて逝去されました．

竹田氏は当学会で，2007–2010年度に庶務理事を，また2000–2003年には欧文研究報告のコピー編集を務められました．心よりご冥福をお祈り申し上げます．

天文月報120巻1月号　主な掲載予定記事

林忠四郎賞：宇宙初期天体形成理論の進展【大向一行】

EUREKA：事象の地平面スケールにおけるイメージの時間変動から探る時空構造【高橋幹弥】広視野狭帯域撮像観測で探る銀河形成最盛期における原始銀河団の星形成活動【大工原一貴】

天球儀：2025年度天文功労賞（短期）：掩蔽観測による小惑星（100624）1997 TR28の衛星の発見【井狩康一】

シリーズ・天文学者たちの昭和：田原博人氏ロングインタビュー　第4回：東京天文台時代【高橋慶太郎】

編集委員：日下部展彦（編集長），岡本丈典，小山翔子，志達めぐみ，鈴木大介，高橋葵，田中壱，谷川衝，鳥海森，中島亜紗美，信川久実子，橋本拓也，福島肇，藤澤幸太郎，宮武広直，宮本祐介，守屋尭

令和8年11月20日　発行人　〒181–8588 東京都三鷹市大沢2–21–1　国立天文台内　公益社団法人　日本天文学会
印刷発行　印刷所　〒162–0801 新宿区山吹町332–6　株式会社　国際文献社
定価733円（本体667円）　発行所　〒181–8588 東京都三鷹市大沢2–21–1　国立天文台内　公益社団法人　日本天文学会
Tel: 0422–31–1359（事務所）／0422–31–5488（月報）　Fax: 0422–31–5487
振込口座：郵便振替口座00160–1–13595　日本天文学会
三菱UFJ銀行 三鷹支店（普）4434400　公益社団法人　日本天文学会
日本天文学会のウェブサイト https://www.asj.or.jp/　月報編集e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp
会費には天文月報購読料が含まれます．

© 公益社団法人日本天文学会2026年（本誌掲載記事は無断転載を禁じます）